

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：戸部 郁代 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) ウェルネスから見た母性看護 過程＋病態関連図	共著	2021. 12	医学書院	学生を対象とした母性看護学における看護過程 展開の習得に向けた内容である。 担当部分:婦人科疾患を合併する妊婦の看護 (p.366-376) 共著者:戸部郁代, 伊東美佐江 分娩損傷(p.605-614) 著者:戸部郁代 編集:佐世正勝, 石村由利子
2 (学術論文) 少子化の要因としての女子大 学生の恋愛観と対児感情に ついて	共著	2023.11	インターナショナル Nursing Care Research 22(2):61-68	少子化要因である非婚率低下に関連した恋愛 観と子どもに対する感情との関連を明らかにする 目的で, 262 名を対象として恋愛関係の影響項 目と対児感情評定尺度を用いて調査した。恋人 がいる人は, 恋愛関係にポジティブな影響を受 けていた。また, 両者の関連性では, 対児感情 の拮抗指数が低い人の方が恋愛関係の自己拡 大を高め, 経済的負担感を低め, 青年期の発達 課題である親密性の構築が影響している可能性 が示唆された。共同研究につき本人担当部分抽 出不可能:戸部郁代, 久保田悠香, 西村紀映
3 (学術論文) 青年期にある女子大学生の 心理的自立と愛着スタイル の関係性について	共著	2022.5	インターナショナル Nursing Care Research 21(2):61-68	女子大学生の心理的自立と愛着スタイルの関連 を明らかにする目的で, 189 名を対象として成人 愛着スタイル尺度(ECR-GO)と心理的自立尺度 (PJS-2)を用いて調査した。愛着スタイルが安定 型の人が対人恐怖型の人と比較して心理的自 立の各因子の得点が高かった, 自立したと思え る時は「就職した時」が最も多く, 経済的な依存 が解消された時を自立したと考える傾向が示唆 された。共同研究につき本人担当部分抽出不可 能:戸部郁代, 大坪明日香, 岡田伊代
4 (学会発表) 青年期にある女子大学生の 「理想の母親像」形成 に影 響する要因について	共同	2024.10	第 65 回日本母性衛 生学会学術講演会	母親になりたいと思うことと理想の母親像を考 えることは有意に関連した。理想の母親像は先 行研究と異なり, 「従来型母親像」「現代型母 親像」の 2 因子が抽出され, 理想の母親像を 考えたことがある人で「現代型母親像」で高い 得点を示した。自己肯定意識との関連では, 対 自己領域における得点が高い人ではどちらの 母親像も高い得点を示した。共同研究につき 本人担当部分抽出不可能:津能朱里, 松尾 衿花, 戸部郁代
5 (学会発表) 少子化の要因としての経 済的負担に対する看護 系大学生の意識について	共同	2023.10	第 64 回日本母性衛 生学会学術講演会	自身の大学卒業までにかかる費用を一般的に 示される費用より低額に認識しており, 親と大 学進学のための経済的準備についての会話を した学生も約 7 割であった。家庭における経 済の学習が行われておらず, 社会人になる前 に将来の資産形成と運用について学校教育を 通して積極的に学習していく必要があることが 示唆された。共同研究につき本人担当部分抽 出不可能:菅村優, 戸部郁代

令和 7 年 5 月 1 日 現在

